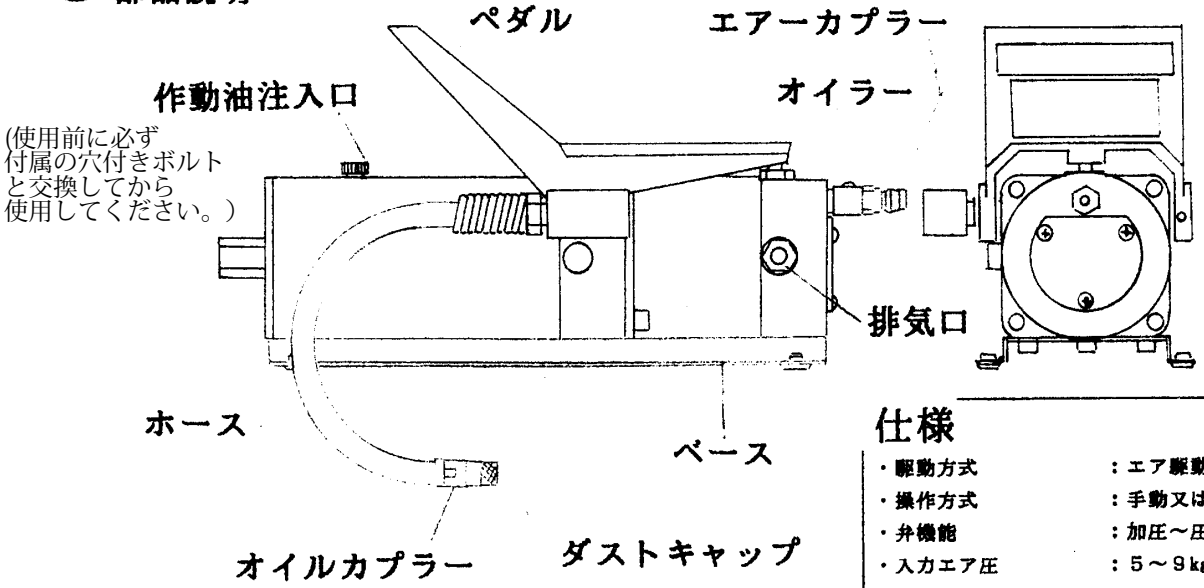
ＡＰ－８０
エアーポンプ
取扱説明書

このたびは、ＫＯＴＯ製品をお買上げ頂きありがとうございます。

取扱説明書を必読し、正しい使い方をご理解した後に本製品をご使用下さい。

○ 部品説明



仕様

・駆動方式	：エア駆動式油圧ポンプ
・操作方式	：手動又は、足踏みペダル式
・弁機能	：加圧～圧力保持～圧力開放
・入力エア圧	：５～９kgf/㎠
・内部圧抜き値	：７００kgf/㎠
・組込シリンダー	：単動油圧シリンダー
・カプラー方式	：エア側　ＰＴ3/8雌
	油圧側　ＰＴ3/8雌
・オイルタンク容量	：７００cc
・重量	：１０kgf

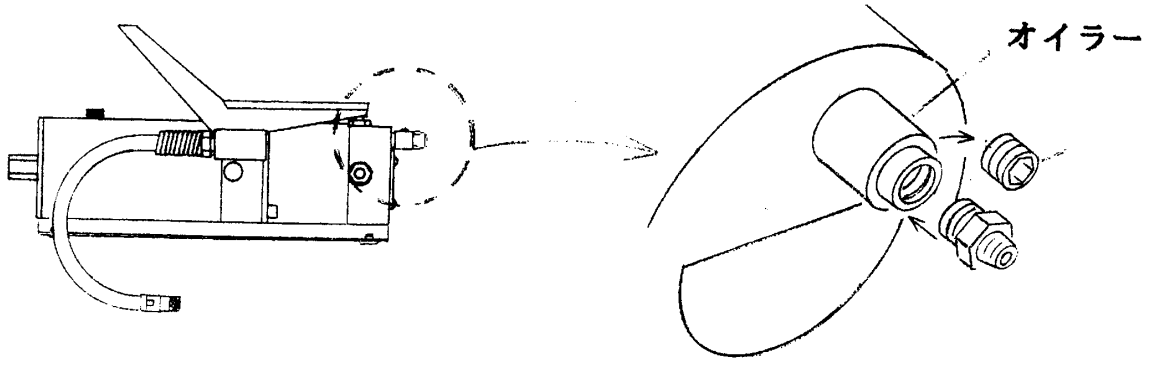
○ 使用説明（説明は、ＰＴ－８００－Ｈに添った手順で行われます。）

Ⅰ．設置

①コンプレッサーとの接続

オイラーの止めねじを外してエアーカプラーを取り付けて、コンプレッサーを接続して下さい。

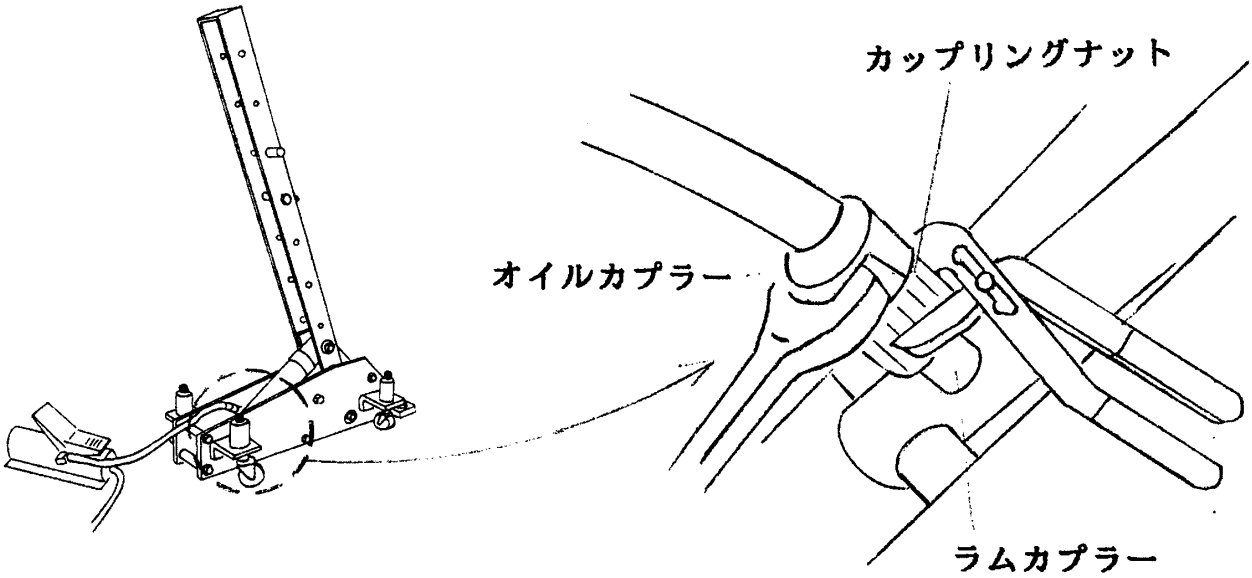
⚠ 注意　カプラーにゴミなどが付着していないか確認して下さい。



②押しラムとの接続

エアーポンプのオイルカプラーをラムのカプラーに密着まで差し込んだ状態でカップリングナットを手で締め、工具を使用して完全締めをして下さい。

⚠注意　必ず工具を使用して完全締めをして下さい。

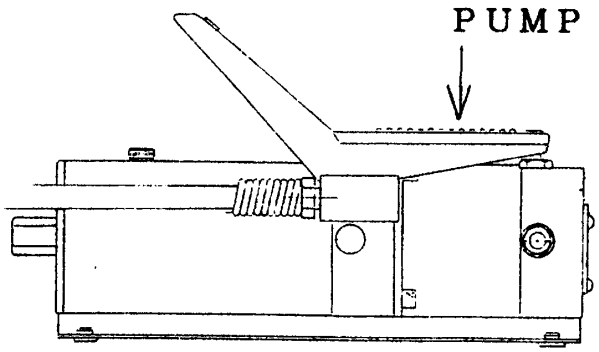


Ⅱ．エアーポンプの作動

①加圧

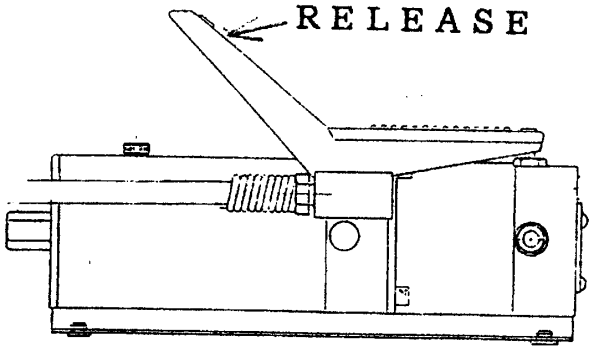
ペダルの”ＰＵＭＰ”と刻印してある側を押せば、エアポンプは作動し圧力が加わります。”ＰＵＭＰ”側を押すことを止めれば、エアポンプの作動が止まり、圧力が保持されます。

⚠注意　エアー圧は、１０kgf/㎠以上で使用すると危険ですので注意して下さい。
そのまま数分間使用すると、エアーポンプの破損の原因となる場合があります。



②減圧

ペダルの”ＲＥＬＥＡＳＥ”と刻印してある側を押せば、圧力が抜けていきます。
ゆっくり押すと静かに減圧し、強く押すと早く減圧します。

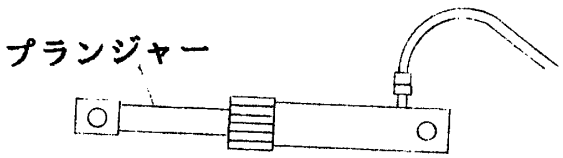


Ⅲ．作動油の中にエアー混入した場合（エアーの抜き方）

ラムに接続してポンプを作動した時に、押しラムのプランジャーの動きがスムーズでない場合（断続的に伸びる）や、圧力が上がらない場合は、作動油にエアーが混入している事が考えられます。その場合、下記の要領でエアーを抜いて下さい。

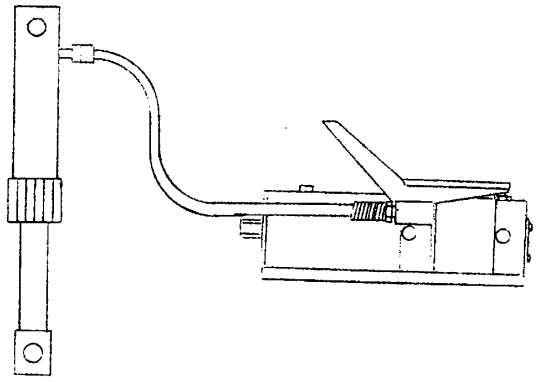
① ＰＴ－７５０－Ｈから押しラムを外して下さい。

② エアーポンプの”ＰＵＭＰ”を押して、押しラムのプランジャーを完全に伸ばして下さい。



③ 押しラムのカプラーが上に来るようしてエアーポンプの”ＲＥＬＥＡＳＥ”を押し、内部のエアーポンプに戻る様にします。

この操作を２～３回繰り返せばエアーが完全に抜けます。



Ⅳ．作動油の補充

カプラーの接続、取外しを繰り返すとエアーポンプの作動油が減少していきます。その場合、下記の要領で作動油を注入して下さい。

① エアーポンプの押しラムとコンプレッサーとの接続を外して下さい。

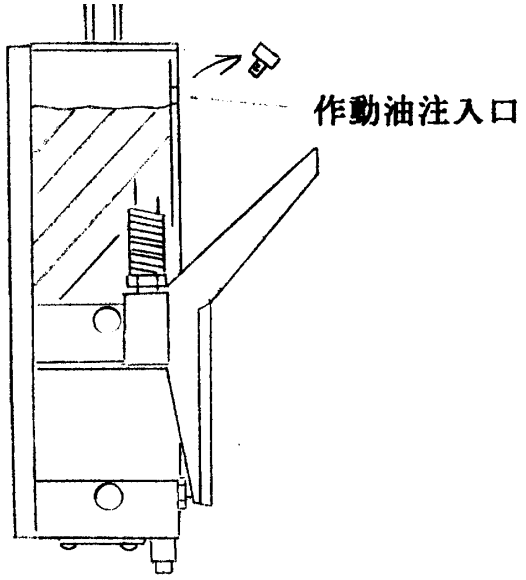
⚠ 注意 作動油の入れすぎになるので、押しラムのプランジャーを必ず縮めて下さい。

② 作動油注入口ビスを外して下さい。

③ 作動油注入口が上に来るようにエアーポンプを立てて下さい。

④ 作動油注入口に作動油が溢れるまでいれて下さい。補充後は、作動油注入口ビスをして下さい。

⚠ 注意 作動油は市販品のISO VG32相当をご使用ください。

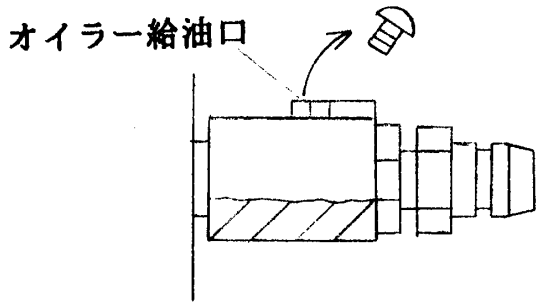


Ⅴ．オイラー油の補充

エアーポンプの作動により、エアーポンプ内部錆び止め用のオイラー油が減少していきます。その場合、下記の要領でオイラー油を注入して下さい。

① オイラー給油口ビスを外します。

② オイラー給油口には市販品のISO VG32相当を底から１／３程度までいれて下さい。



故障かなと思ったら

故障	原因	対策
エアーポンプが作動しない。	1．エアー圧が高すぎる。 2．エアー圧が低すぎる。	規定エアー圧にする。 （5～9kgf/㎠）
	3．オイル漏れ	当社に修理を依頼する。
エアーポンプは作動するが規定圧力が出ない。(ラムが伸びない。)	1．作動油が減少している。	作動油の補給
	2．ポンプ内部オイル漏れ	当社に修理を依頼する。
押しラムが戻らない。	1．エアーポンプのオイルカプラーと押しラムのカプラーが確実に接続されていない。	両カプラーが確実に接続されているか確認する。
	2．内部の作動油が多すぎる。	作動油注入口ビスを外して余分な作動油を排出する。
	3．上記外	当社に修理を依頼する。
エアーポンプの作動が停止しない。	1．Oリングの摩耗。	交換
排気口から油が出る。	1．ポンプ内部オイル漏れ	当社に修理を依頼する。

⚠ 注意　取扱説明書は、いつでも取り出せる場所に保管して活用して下さい。

販売元 江東産業株式会社